

ナイスクから盗んだものを活かして

立教大学社会学部メディア社会学科4年
インターン&アルバイト期間 2008年1月～2011年2月
2010年4月 NHK 放送マネジメント部 営業の企画推進 内定

「頑張れば頑張っただけ身につく会社」との出会い

私がナイスクでアルバイトを始めたきっかけは、サークルの先輩でした。もともと私は飲食店でアルバイトをしていましたが、大学でメディアについて学んでいることもあり、自分の将来を考える上で一回メディアに関わる仕事がしてみたいと考えていました。そんなとき、サークルの先輩からナイスクのことを聞きました。「頑張れば、頑張っただけ身につく会社」。先輩からそう聞き、興味を抱いた反面、飲食店以外で働いたことがない私にアルバイトが勤まるだろうか、と不安にも感じました。しかし実際に働き出してその不安は吹き飛びました。まずナイスクには壁を感じにくい環境があります。社長のことを「さん」付けで呼ぶということに私は驚きましたし、研修にはアルバイトも参加でき、オープンな空気で仕事をすることができます。「頑張れば頑張っただけ身につく」という言葉を実感しながら仕事に取り組むことができました。

「真似ぶ」のすすめ

「学ぶは真似ぶ」。これは私がナイスクでアルバイトを始めてから、最初に受けた研修で学んだ言葉です。そしてこの言葉こそが、私にとって大きな意味をもつ言葉になりました。「積極的に盗み見、盗み聞きをしなさい。そして良いと思ったことはどんどん真似をしなさい」。ただ黙々と仕事をするのは簡単ですが、この意識を持つと毎日新鮮な発見がありました。

この「真似ぶ」の意識が、就職活動で活かされたと思います。例えば集団面接のとき。学生時代ががんばった経験を聞かれることが多いのですが、私は他の学生の発言をよく聞くようにしていました。「なぜこの人の話はこんなに面白いのか?」「なぜこの人はすごい経験をしているのに、話がわかりにくいのか?」私は自分なりに分析をして、良い点を積極的に真似るようにしました。面接は回数を重ねれば重ねるほど慣れていき話しやすくなりますが、受けることができる面接の回数は時間的にも限られています。一回の面接でどれだけの「学び」を得るかは、とても重要なことだと思います。たくさんの就職本があり、何を参考にすればよいのかわからないとは思いますが、「本に書いてあったから真似る」のではなく、実際に会った学生で「この人のココがいい!」と思ったことを真似てみてください。それが一番ためになると思います。

インターンシップの経験は、ただすれば良いというものではありません。日々何かを学び、吸収することが大切なのだと思います。ナイスクは吸収する素材が溢れています。日々の「気付き」を大切に、インターンシップを有意義なものにしてほしいと思います。